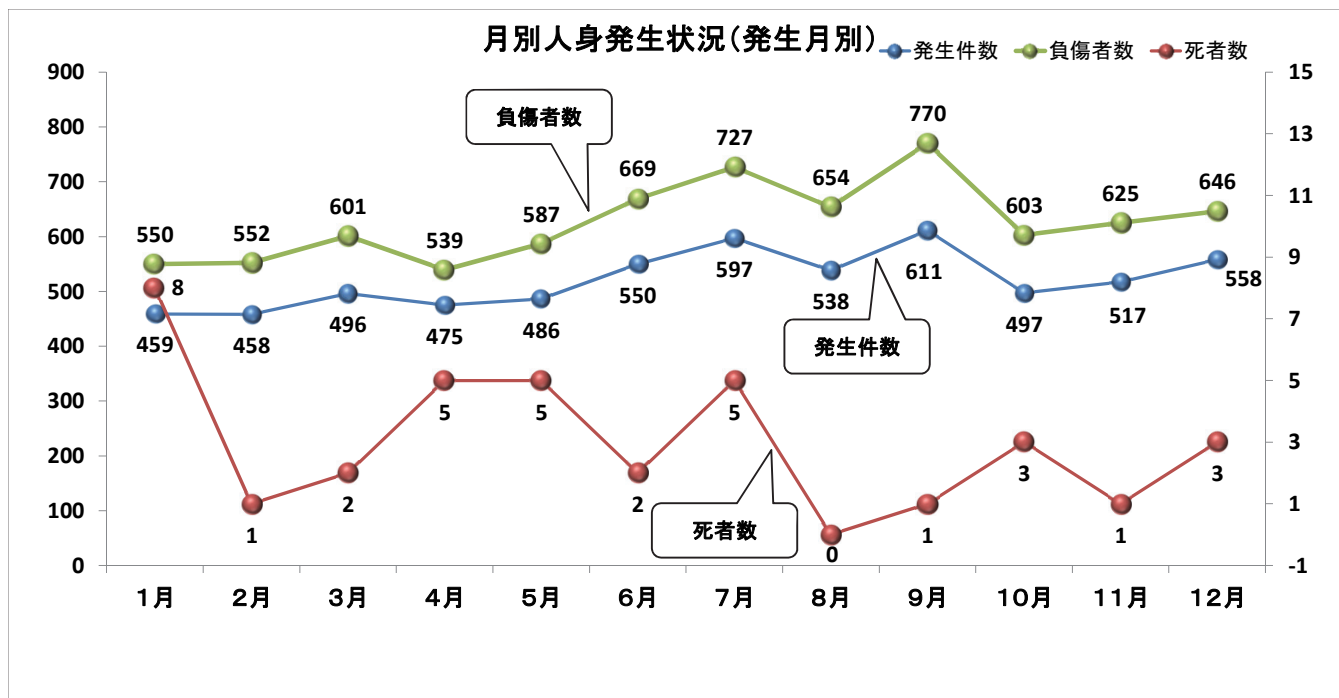


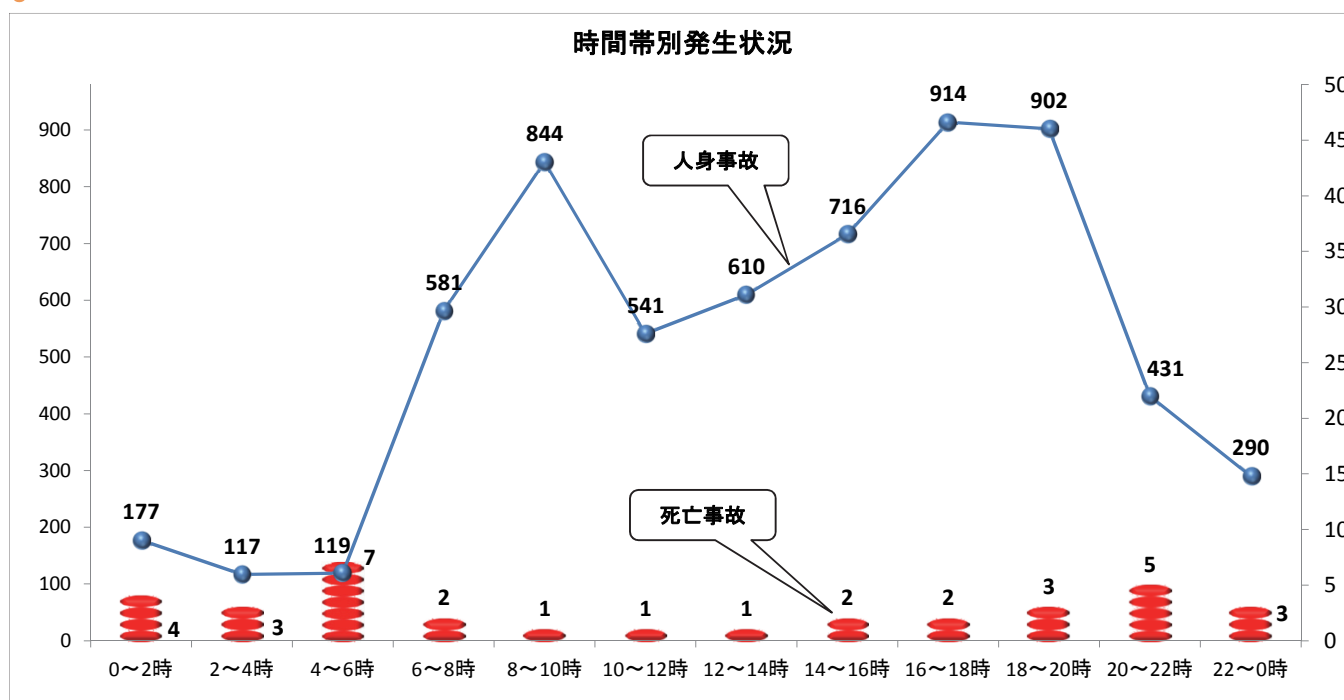
第2 平成26年中の交通事故発生状況

13 月別事故発生状況



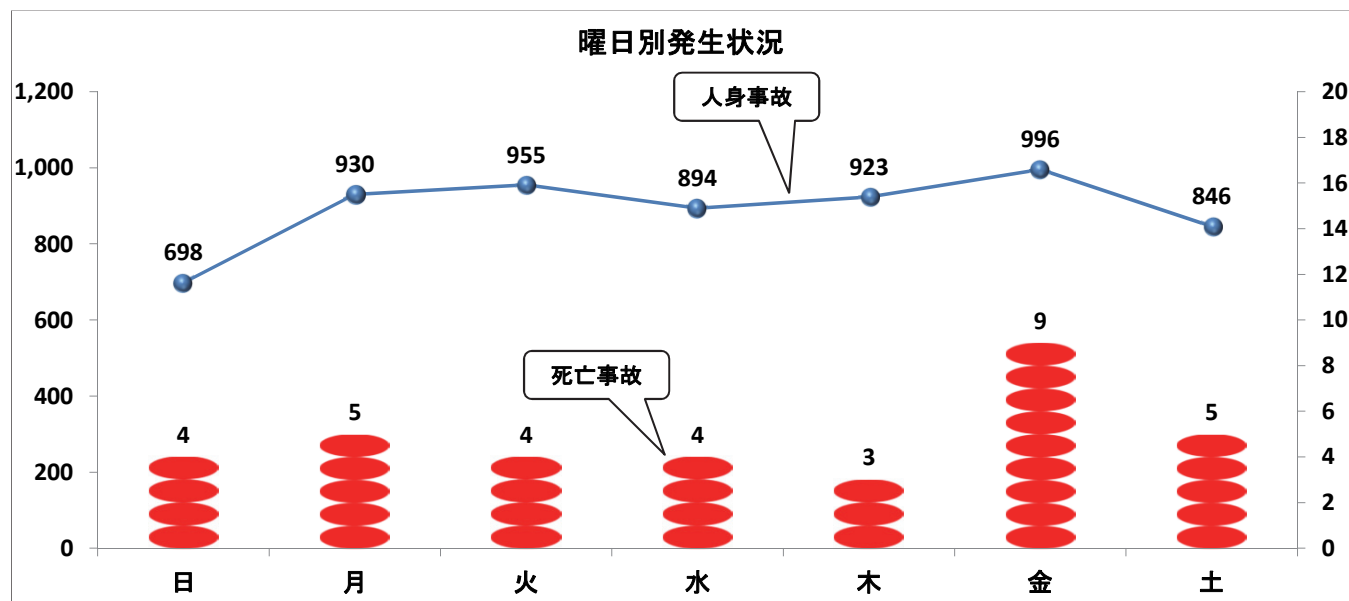
- 発生件数は、1ヶ月平均約520件で、9月(611件)が最も多く、2月(458件)が最も少なくなっています。
- 死者数は、1月が8人で最も多く、次いで4月と5月、7月の5人となっています。

14 時間帯別事故発生状況



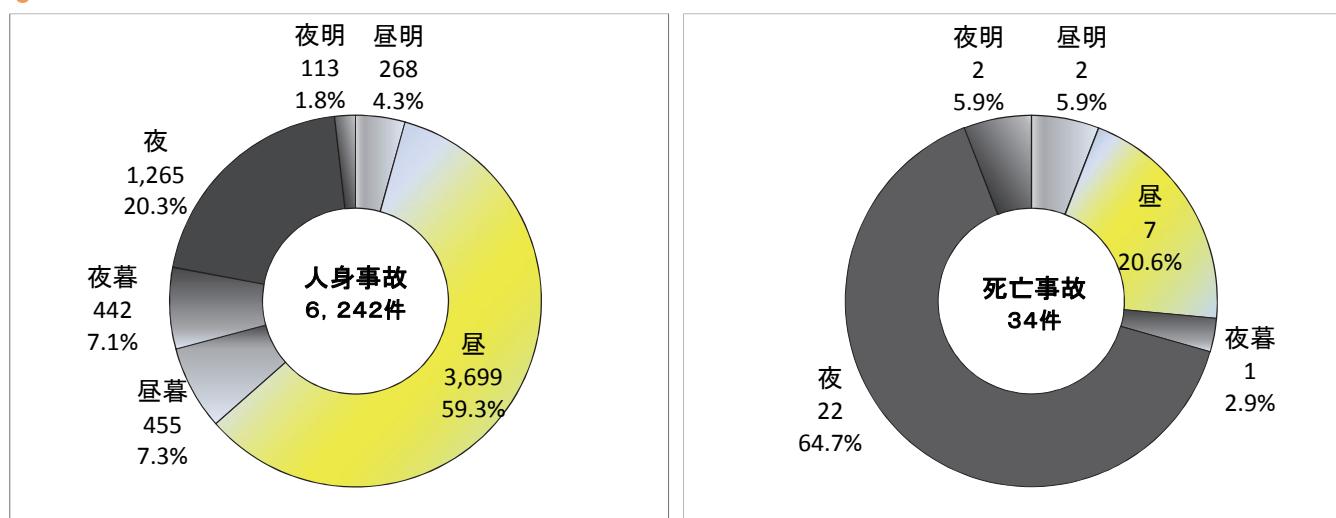
- 人身事故は、登校・出勤時間帯(8時~10時)と下校・退社時間帯(16時~20時)が発生のピークとなっています。
- 死亡事故は、4時~6時の時間帯に最も多く発生しています。

15 曜日別事故発生状況

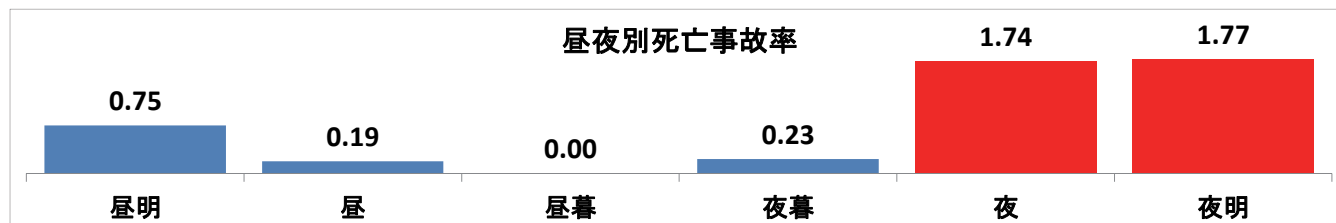


- 人身事故は、金曜日(996件)が最も多く、日曜日(698件)が最も少なくなっています。
- 死亡事故は、金曜日(9件)が最も多くなっており、特に週末(金、土、日)に18件で全体の52.9%となっています。

16 昼夜別事故発生状況



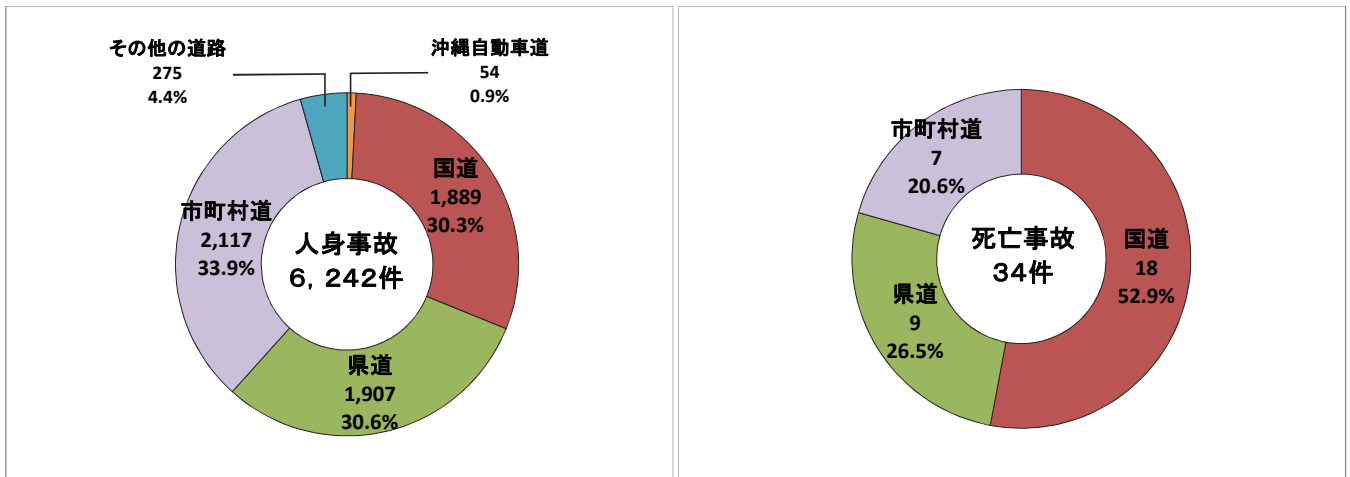
昼夜別死亡事故率



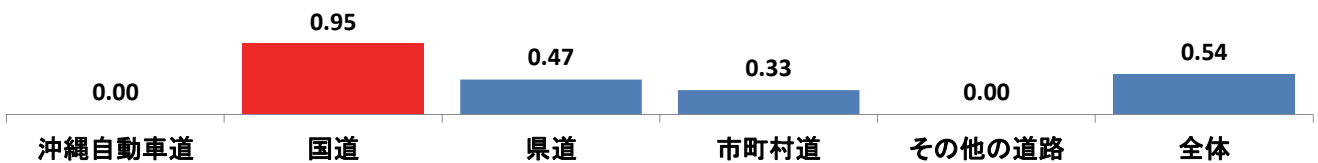
- 人身事故は、昼(3,699件)が最も多く、薄暮時間帯(昼明、昼暮)を含む昼間の事故は、70.8%を占めています。
- 死亡事故は、夜(22件)が最も多く、薄暮時間帯(夜暮、夜明)を含む夜間の死亡事故は、73.5%を占めています。
- 死亡事故率は、夜明(1.77%)が最も高くなっています。

※ 昼明: 日の出から1時間以内の範囲 昼暮: 日の入前の1時間以内の範囲(昼: 昼明と昼暮を除く、日の出から日の入りまでの時間)
夜暮: 日の入後の1時間以内の範囲 夜明: 日の出前の1時間以内の範囲(夜: 夜暮と夜明を除く、日の入りから日の出までの時間)

17 路線別事故発生状況

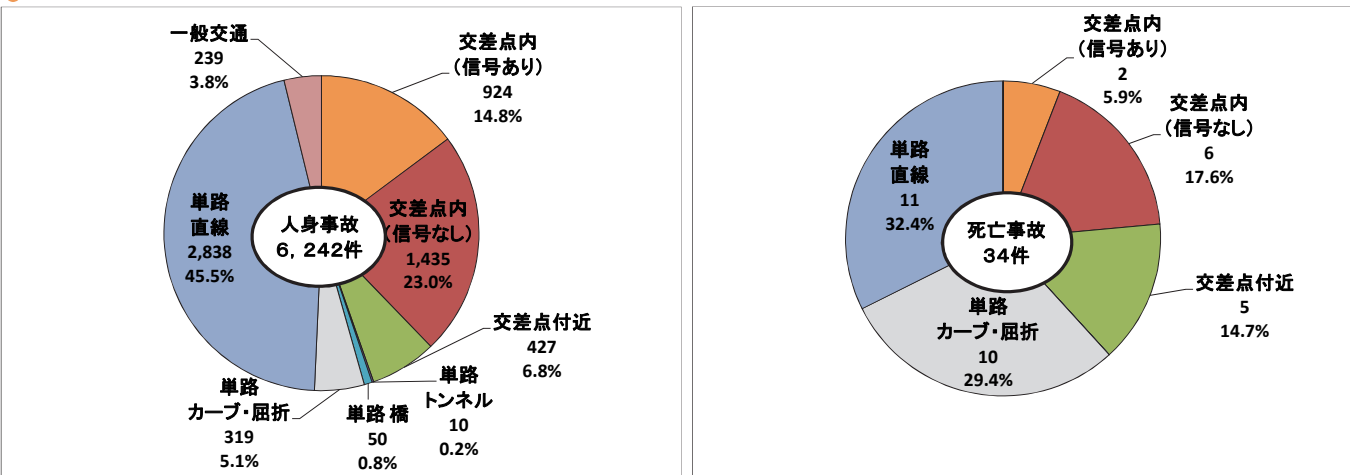


路線別死亡事故率(人身事故に占める死亡事故の構成率)

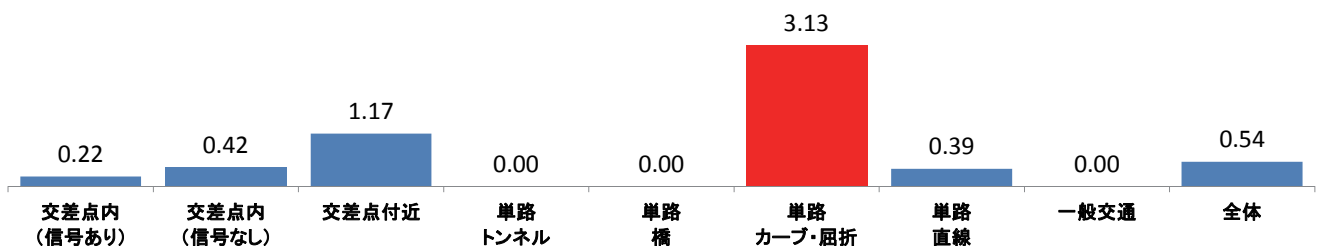


- 人身事故は、市町村道(2,117件)が最も多く、全体の33.9%を占めています。
- 死亡事故は、国道(18件)が最も多く、死亡事故全体の52.9%を占めています。
- 死亡事故率は、国道(0.95%)が最も高くなっています。

18 道路形状別事故発生状況



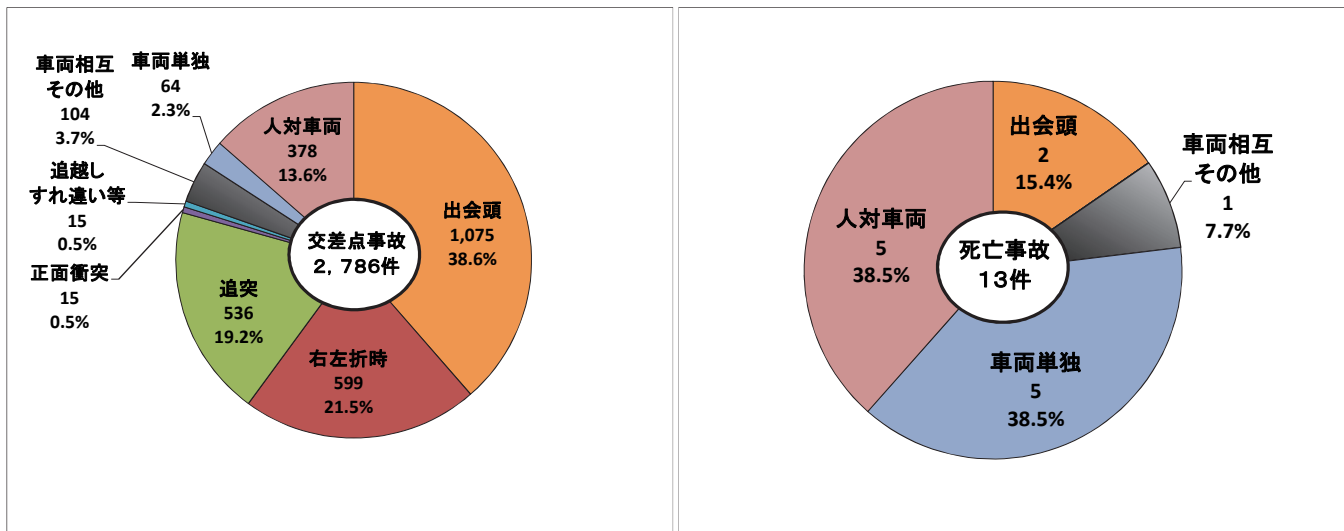
道路形状別死亡事故率(人身事故に占める死亡事故の構成率)



- 人身事故は、単路直線(2,838件)が最も多く、次いで信号なしの交差点内(1,435件)、信号ありの交差点内(924件)となっています。
- 死亡事故は、単路直線(11件)で最も多く、次いで単路カーブ・屈折(10件)となっています。
- 死亡事故率は、単路のカーブ・屈折(3.13%)が最も高くなっています。

19 交差点事故発生状況

交差点(付近を含む)事故の事故類型別発生状況



- 交差点事故(交差点付近を含む。)は、出会い頭(1,075件)が最も多く、次いで右左折時(599件)、追突(536件)の順となっており、これらで約8割(79.3%)を占めています。
- 死亡事故は、車両単独と人対車両(各5件)が最も多くなっています。

交差点事故の構成率が高い市町村

	市町村名	人身事故	交差点事故	交差点事故の構成率
1	栗国村	2	2	100.0
1	伊江村	2	2	100.0
1	久米島町	1	1	100.0
4	八重瀬町	71	53	74.6
5	嘉手納町	46	31	67.4

交差点事故の発生件数の多い市町村

	市町村名	人身事故	交差点事故	交差点事故の構成率
1	那覇市	1,744	809	46.4
2	沖縄市	622	289	46.5
3	宜野湾市	481	232	48.2
4	浦添市	600	224	37.3
5	うるま市	404	188	46.5

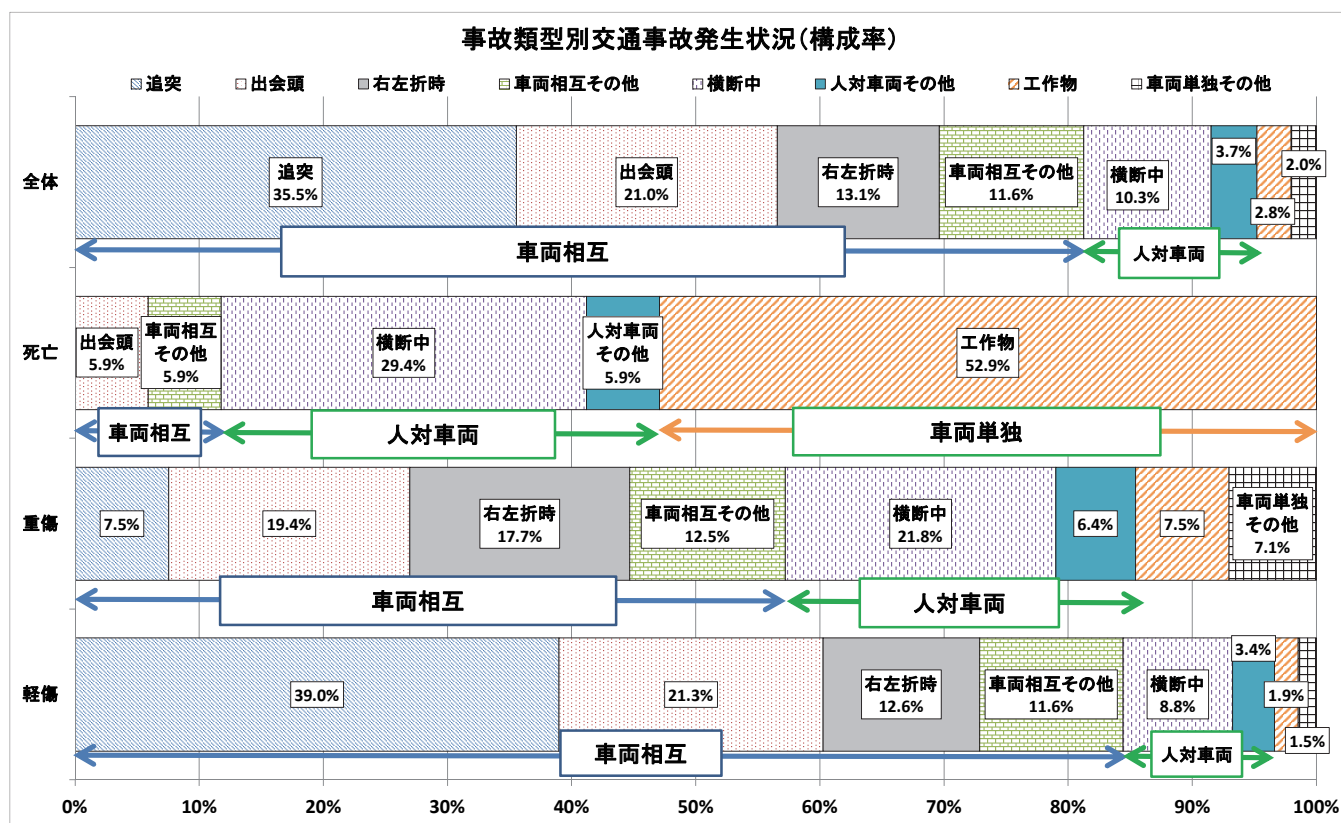
20 事故多発交差点

国道・県道の事故多発交差点

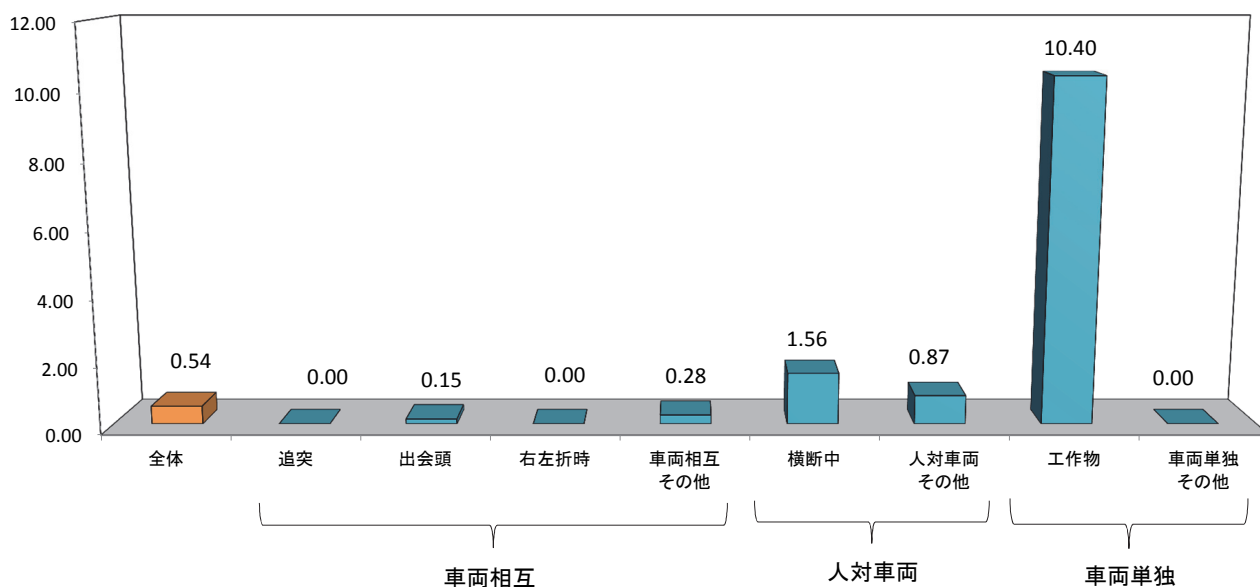
	交差点名	市町村名	路線名	発生件数
1	旧伊佐交差点	宜野湾市	国道58号	12
2	古島インター	那覇市	県道82号線	11
3	旭橋交差点	那覇市	国道58号	10
4	上之屋交差点	那覇市	国道58号	9
4	松山交差点	那覇市	国道58号	8

- 国道・県道の交差点では、旧伊佐交差点(国道58号)が12件で最も多く、次いで古島インター(県道82号)11件、旭橋交差点(国道58号)10件の順となっています。

21 事故類型別事故発生状況



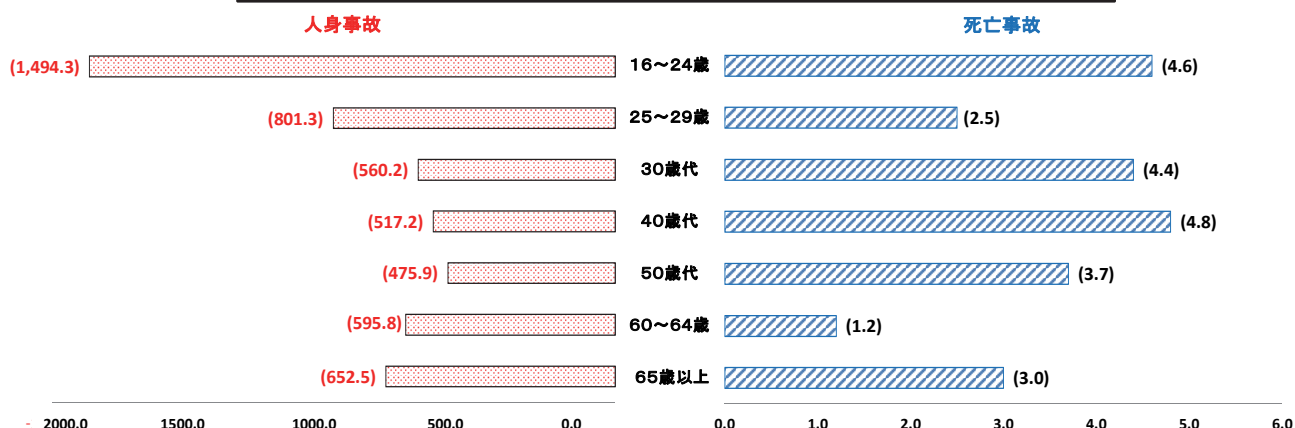
事故類型別死亡事故率



- 事故類型別の交通事故発生状況は、追突事故、出会頭事故、右左折時が多く、全体の約7割(69.6%)を占めています。
- 死亡事故は、車両単独事故が52.9%、人対車両が35.3%、車両相互が11.8%となっています。
- 全人身事故に占める死亡事故率は、車両単独の工作物衝突事故が10.4%と最も高く、全体(0.54%)の約19.2倍となっています。

22 年齢層別事故発生状況

原付以上運転者(第1当事者)の年齢層別運転免許保有者10万人当たり交通事故件数

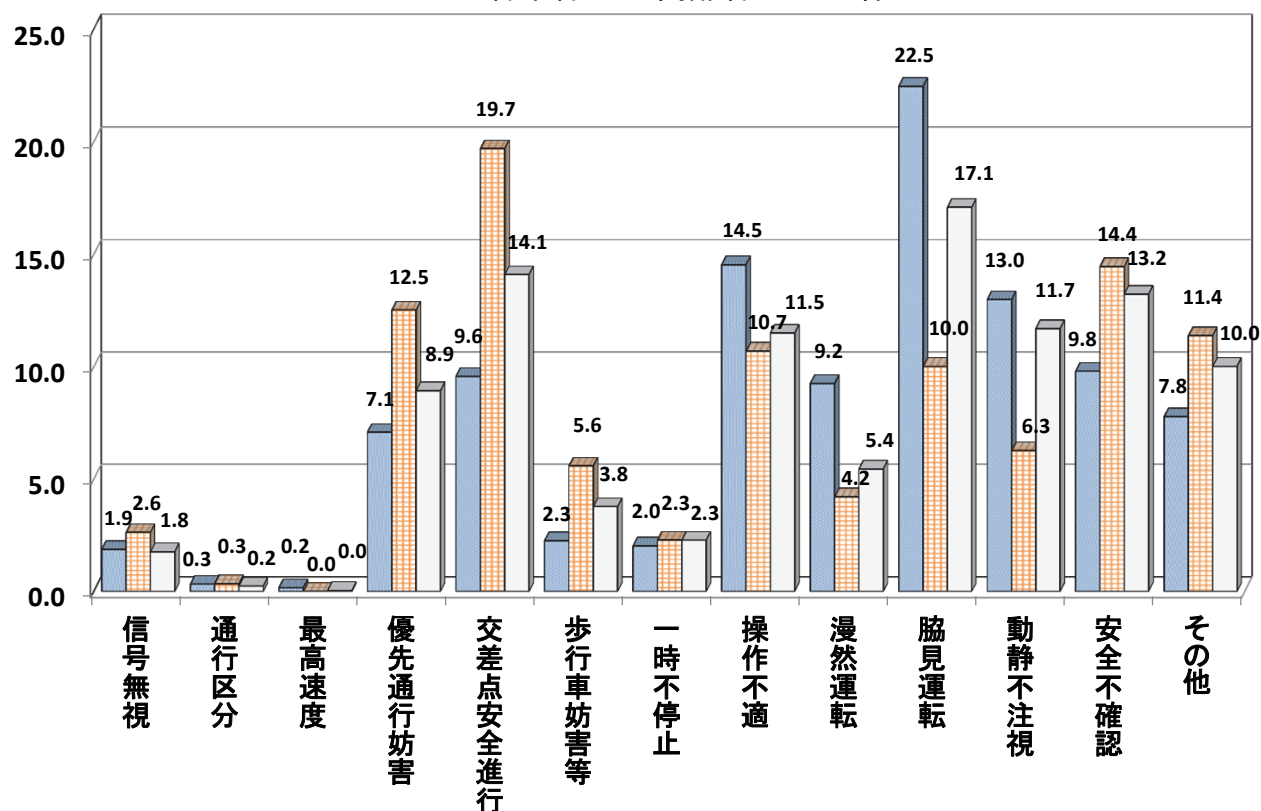


- 人身事故は、若年者(16~24歳)(1,494.3件)が最も多く、次いで25~29歳(801.3件)となっています。
- 死亡事故は、40歳代(4.8件)が最も多く、次いで若年者(16~24歳)(4.6件)となっています。
- ※ 運転免許保有者10万人当たりでは、人身事故、死亡事故いずれも若年者の運転による事故が多くなっています。

23 法令違反別年齢層別事故発生状況

原付以上運転者(第1当事者)の法令違反別・年齢層別人身事故の構成

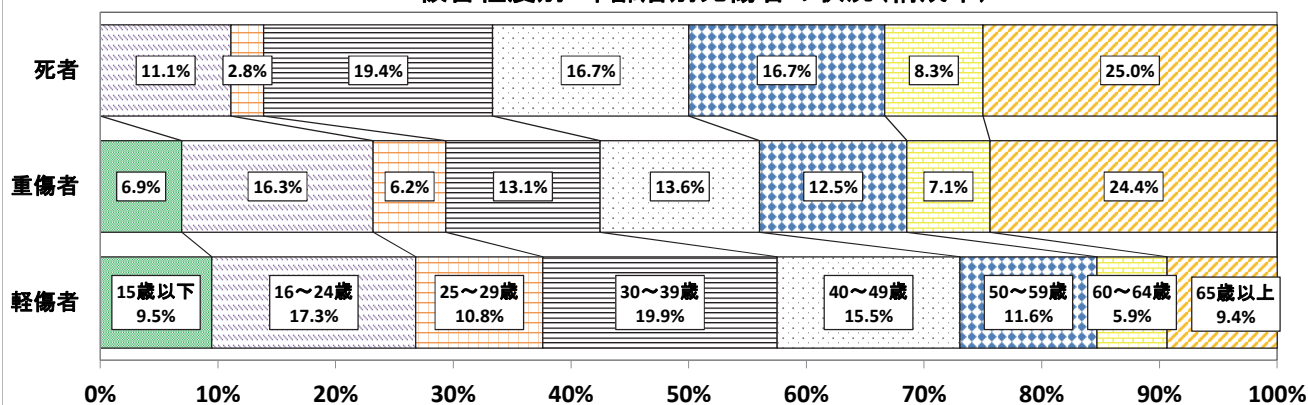
■ 若年者 ■ 高齢者 □ 全体



- 全体は、脇見運転(17.1%)の割合が最も高く、次いで交差点安全進行義務違反(14.1%)となっています。
- 若年者は、脇見運転(22.5%)、操作不適(14.5%)、動静不注視(13.0%)の割合が高くなっています。
- 高齢者は、交差点安全進行義務違反(19.7%)、安全不確認(14.4%)、優先通行妨害(12.5%)の割合が高くなっています。

24 年齢層別死傷者の状況

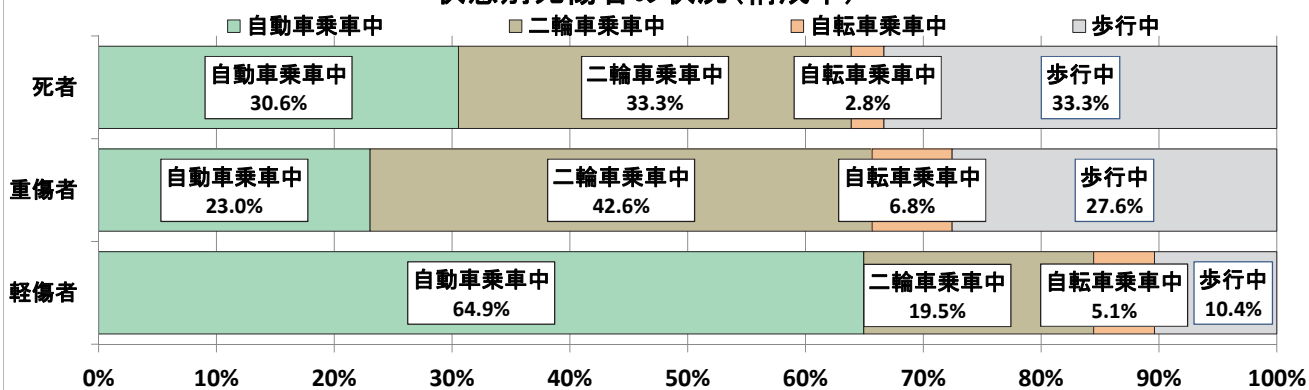
被害程度別・年齢層別死傷者の状況(構成率)



- 被害程度別の構成率が最も高いのは、死者は高齢者(65歳以上)(25%)、重傷者も高齢者(24.4%)、軽傷者は30～39歳(19.9%)となっています。

25 状態別死傷者の状況

状態別死傷者の状況(構成率)

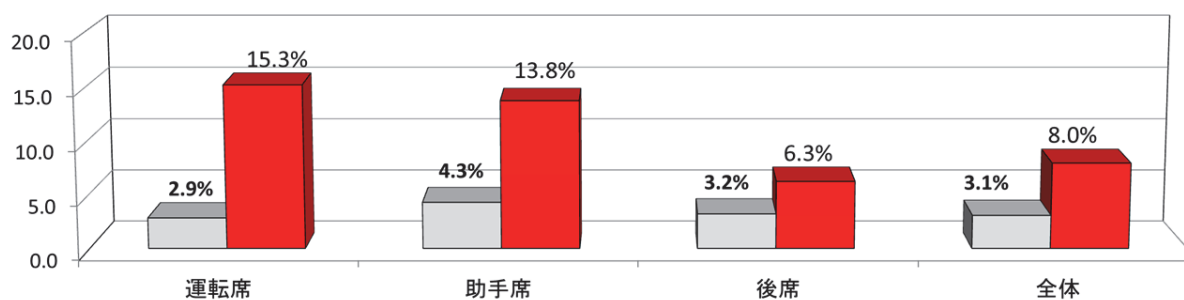


- 状態別の構成率が最も高いのは、死者は歩行中と二輪車乗車中(各33.3%)、重傷者は自動二輪車乗車中(42.6%)、軽傷者は自動車乗車中(64.9%)となっています。

26 シートベルト着用状況

座席別シートベルト着用有無別死亡重傷率

□ 着用 ■ 非着用



- シートベルト(チャイルドシートを含む。)着用有無別死亡重傷率は、着用者3.1%に対して、非着用の死亡重傷率が約2.6倍の8%となっています。
- 座席位置別の死亡重傷事故率は、運転席の非着用が15.3%と高く、着用者の約5.3倍となっています。